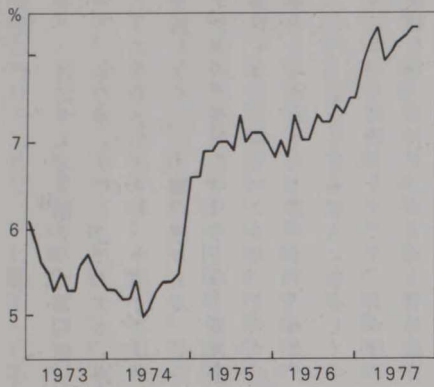




はいがみ合いの状況になりましたからね。ただ、ここ一、二年、双方に——特に組合側から——歩み寄りのきざしがいくらか見えてきました。インフレ対策室の諸指標や高い失業率などは、経済がそういつまでも伸び続けるものでないことを示しています。労使関係はもっと良くなつて欲しいですね。日本では、政府も経済人も労働者も国益というものを非常によく理解しておりますので、カナダの状況は解せないかも知れません。私自身、何かいい即効の解決法があればいいのですが、どうしたらいいのか……。あるいは教育的なものかも知れません。実は、その「教育」は現在、あるていど行われているのです。二、三カ月前のことですが、日本に輸出しているカナダのある大手業者が日本の業者と商談に来た際、組合関係者二人を伴ってきた、ということを知りて嬉しく思いました。

**武山** それは仲々いいことですね。  
**大使** 二人は日本の商社の案内で、日

失業率



本全国を回り、自分たちと同種の産業を見学した、という話です。これはきわめて賞賛すべきことで、もっともつとつこういふ機会を増やして欲しいですね。

カナダの賃金水準については、どうも神話化されている気がします。アメリカとカナダの賃金が比較される場合、いつも基本給だけが比較されて、(保険などの)諸手当は計算されません。カナダにはアメリカの労働組合員が当然得ているのと同じような諸手当がありません。ですから、高賃金というのは、それほど理不尽ではないと思います。カナダの賃金水準は、これまでアメリカの水準の八〇パーセントぐらいでした。世界一裕福な国の隣りに住む国民に、お隣りよりいくらか低い生活水準で我慢してもらいよう期待するのは、むずかしいことです。カナダの賃金水準がアメリカの水準と均等になり、しかも国内で消費するには過大の資源を生産する主要国としてのわが国の特異な立場にふさわしい生産性を維持できる限り、またわが国の人口規模やその散在性による狭小市場に割り高な生産コストといったようなことを考えますと、賃金がある程度高くてもいいのではないかという気がします。誰でも、経済が許す限り、高い賃金をもらったほうがよいでしょう。世界的な不況によってこれは難しくなつたでしょうが……。ただ、カナダ・ドルの米ドルに対する価値下落——これは大分落ちついてきました——によって、状況はいくらか改善されたようです。産業によっては、アメリカと比べてもひけを取らなくなつたと、ファイナンシャル・タイムズも報じていました。インフレ対策室が設置され、

物価・賃金抑制策が導入されたのは、経済実態に比べて労働者の要求が大き過ぎたからですが、労働者側はこうした規制を立派に受け入れました。昨年の抑制基準は六パーセントで、インフレ率を下回るでしょう。

ですから、武山さんのご感想は全般的を得ているのもありますし、強調し過ぎているところもあります。輸出国として、わが国だけではどうしようもないものもあり、また武山さんが訪問されてから変わったものもあります。とにかく、状況は変化しています。政府——とりわけクレチエン大蔵大臣——の新しい方針は、経済界がやるべき領域に政府が介入し過ぎないようにする、ということのようです。

**武山** いろいろなこと——特にアルバータ州の石炭政策やカナダの賃金水準、あるいはクレチエン蔵相の方針——がこれでよく分りました。クレチエン蔵相の経済報告によりますと、カナダの貿易収支はかなり好調で、黒字は二十億ドルに迫っているということ、これは確かにいいニュースですが、やはり先ほど申し上げましたように、カナダは試練の自己再評価期に現在直面している、というのが私の偽りのない印象です。これと表裏一体して、国民が現実を直視し、それに対応しようとしているという、心強い態度ももうかがえました。例えば一九七六年十月に連邦政府は「明日の展望」と題する文書を発表しましたが、政府はこの文書を準備するに当たって、建設的な意見や提案を募っている。これはとてもいいことです。また私のカナダ滞在中にいろいろな指導者が行った演説も仲々しっか

りしてました。例えば(辞任直前の)マクドナルド大蔵大臣が去年の九月、サスカチュワン州で「現実に対応せよ、これ以上期待感を高めるな」と国民に強調した演説などは、非常に印象的でした。また、お読みになったかどうか分りませんが、十一月十六日のグローブ・アンド・メール紙で、同紙の発行者マローン氏が一ページをさいてカナダの現況を分析し、カナダが解決しなければならぬ問題は何か、具体的に指摘しています。マクドナルド前蔵相、マローン氏、その他の指導者の発言というものが、きわめて啓蒙的な役目を果たしているんですね。さらに、私がビクトリア(ブリティッシュ・コロンビア州の首都)にいたときですが、国際産労働者組合がスト中止、年間昇給七パーセント等を盛りこんだ二年間有効の労使契約を結んだことを聞きました。かなり穏やかな内容で、これは組合側も現実に対応しなければならなくなつたからでしょう。ブリティッシュ・コロンビア州などでは、労働法を改正する動きも出ています。ケベック州でもそういう話が進んでいます。いずれもいいことです。労使関係というカナダで最も深刻な問題を、カナダはうまく改善して欲しいですね。早ければ早いほどいいと思います。徴候としては、期待していいでしょう。

**大使** 同感です。改善への歯車はすでに回り始めています。  
ところで、カナダの貿易収支は黒字だと武山さんはおっしゃいました。できればそうあつて欲しいのですが、実は残念ながら国際収支はかなりの赤字なんです。  
**武山** そういえば、貿易外勘定の観光収支が大赤字ということ……。